

1 T-5

メッセージ交換システムにおける  
電文発信機能

宮村伸二<sup>1</sup> 倉田 篤<sup>1</sup> 佐久間悦夫<sup>2</sup> 宇田俊宏<sup>3</sup>

(株)東芝<sup>1</sup> 三井物産(株)<sup>2</sup> 三井情報開発(株)<sup>3</sup>

1 はじめに

近年、国内外で企業内大規模ネットワークを構築し、情報交換を行う企業が増えてきた。情報交換の手段として、メッセージ交換、FAX交換などが主に使用されている。弊社では、これら両方の開発を行っており、今回は三井物産(株)殿に導入したメッセージ交換システムの電文発信機能について紹介する。

2 ネットワーク構成

図1にネットワーク構成を示す。東京、大阪、ニューヨーク、ロンドンにそれぞれメッセージ交換システム(弊社製ミニコンピュータT-7/70シリーズ、G8000シリーズ使用)、FAX交換システム(弊社製ミニコンピュータG8000シリーズ使用)を納入した。各システム間は、HDL C回線で接続している。今回紹介する電文発信機能はメッセージ交換システムで実現した機能であり、電文の発信はメッセージ交換システムに接続している専用端末(インテリジェント端末)及び、パソコン端末(専用端末のエミュレータ端末)から行う。

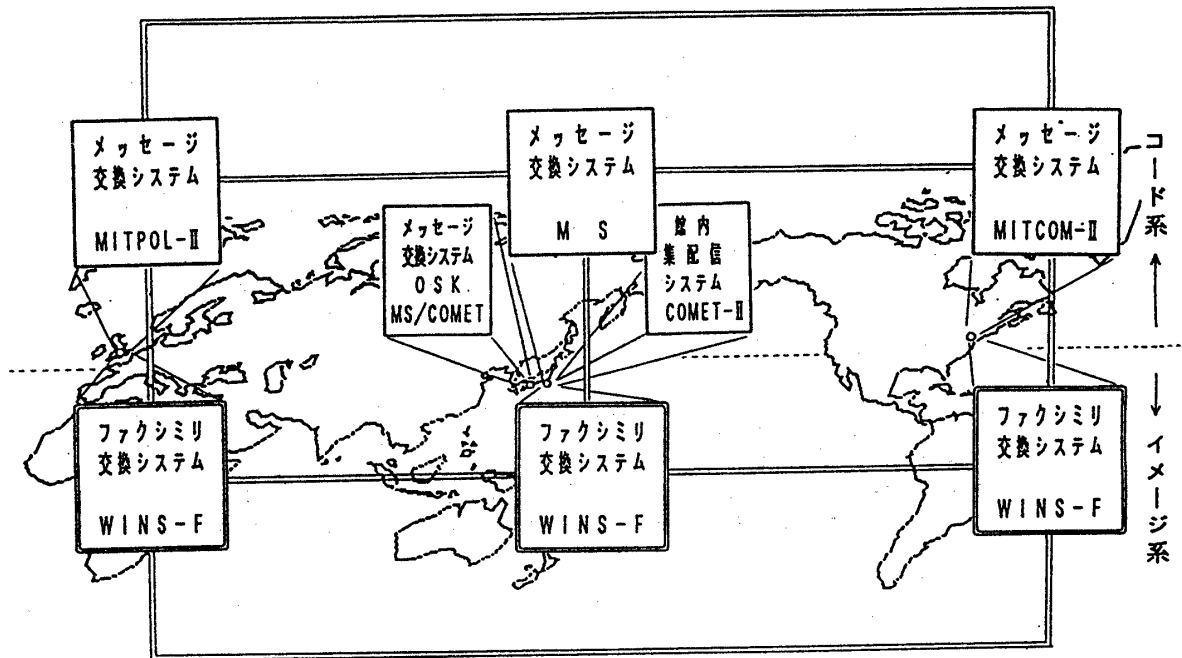


図1 三井物産殿 ネットワーク構成図

Message sending facility on message switching system  
Shinji Miyamura<sup>1</sup>, Atsushi Kurata<sup>1</sup>, Etsuo Sakuma<sup>2</sup>, Toshihiro Uda<sup>3</sup>  
TOSHIBA co.<sup>1</sup>, MITSUI & co.,ltd.<sup>2</sup>, MITSUI KNOWLEDGE INDUSTRY co.,ltd.<sup>3</sup>

### 3 メッセージ交換システム構成

図2にメッセージ交換システムの構成を示す。本システムは通信システム、SC（サブセンタ）とTC（ターミナルコントローラ）から成る。通信システムは他システムとの電文送受信を行い、SCはデプレックス構成（スタンバイ方式）となっており、電文管理等を行う。TCは該当TCに接続している端末の電文送受信を行う。

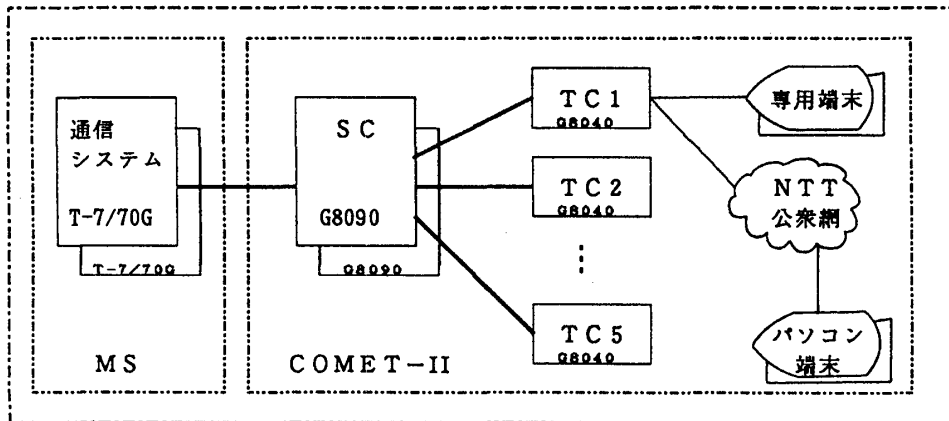


図2 メッセージ交換システム

### 4 システムの特徴

発信者が初心者でも、特別な教育を実施せず簡単な説明だけで操作出来る使いやすいシステムを実現した。以下に本システムの特徴を示す。

#### (1) 自由度の高い入力形式

電文はあて先アドレス、発信元アドレス、電文内容から構成されており、入力電文をあて先アドレス、発信元アドレス、電文毎に編集を行い送信する。発信者は電文の形式を厳密に知っている必要が無く、殆どフリーフォーマットで電文を作成する事が出来る。

#### (2) 国番号を意識しない電文の発信

海外等へ電文を発信する時、あて先ダイヤル番号に目的地の国番号を付加して呼び出す。発信者は電文作成時、国番号を意識する必要は無く、システムで自動的にあて先アドレスから国番号を求めダイヤル番号に付加する。

#### (3) 判り易いエラー表示

入力電文にエラーがあった場合、発信者の端末にエラーメッセージを表示すると共に、エラー箇所を反転表示する。発信者はエラーメッセージに従い反転されているエラー箇所を修正する。

#### (4) 使用頻度の高い電文の事前登録

使用頻度の高い電文をあらかじめ作成しシステムに登録しておき、必要時に該当する電文を取り出し、再利用して発信することが出来る。定例通知電文、挨拶文等の使用に有効である。

### 5 おわりに

メッセージ交換システムにおいて、CPU、磁気ディスクなど主要部分は二重化して高信頼性を実現している。

現在、弊社ではメッセージ交換システムのノウハウを活かして、電子メールシステムを開発中である。